

相場を究める 相場を楽しむ

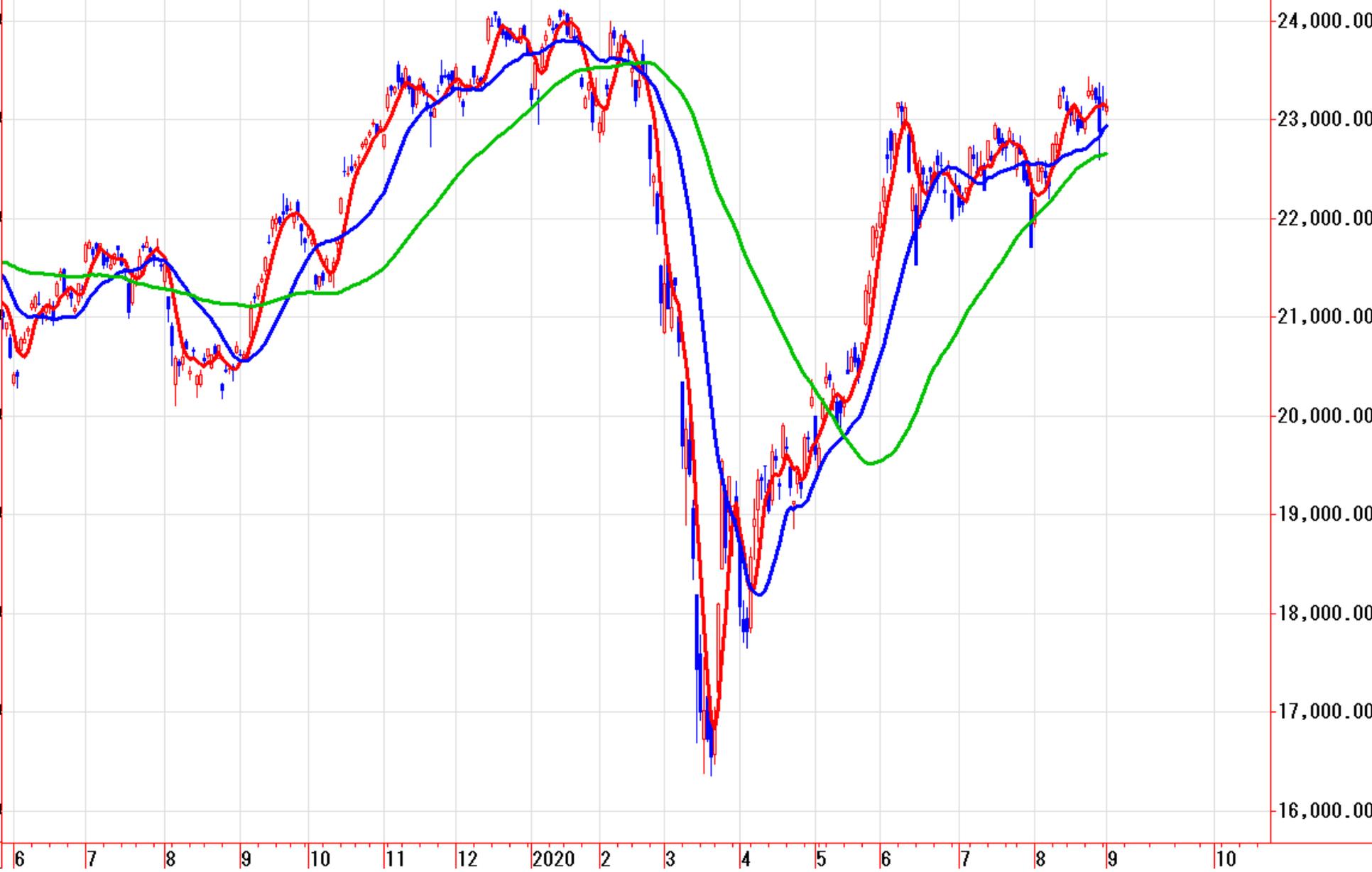
荒野 浩の 市場分析

Market View

(第15回 2020.09.02)

「株式を売らない」ことが世界の潮流

NK225Y (日経 225) - 日足 - ローソク足 (始, 高, 安, 終値) 2020/09/01 L=23,188.07 -1.69 -0.01%
移動平均線 3 本 (Close, 5, 20, 60, 0) 23,132.040 22,948.581 22,655.017



「株式を売らない」ことが世界の潮流 23,000円越えの4局面を検証する

世界の潮流は”株式を売らない”
主要国が一斉に財政拡大、超金融緩和に走ったのは史上初のこと

株式を選好するどころか、売ってはいけないという雰囲気
が醸成されている

日本株の株価を決めているのは空売り比率・売り圧力が
弱いことが値もちの良さの背景

相次ぐ米国株の最高値更新・海外勢は日本株を売り
込めない

相次ぐ米国株の最高値更新。いくら上がっても売りが膨らまない。

・ ・ 同じ時期に日本株の売り圧力も緩む。海外勢が売り込まないから ・ ・
米国株の最高値更新日数（19年10月以降～

		ナスダック	SP500			ナスダック	SP500
19年	10月	0日	2日	20年	4月	0日	0日
19年	11月	11日	11日	20年	5月	0日	0日
19年	12月	10日	9日	20年	6月	5日	0日
20年	1月	7日	6日	20年	7月	7日	0日
20年	2月	9日	7日	20年	8月	13日	7日
20年	3月	0日	0日				

空売り比率（5日平均）が低位で安定していれば、
（海外投資家は）少なくとも日本株を売り越さない
（空売り比率の5日平均が連続して、43%未満であった期間と海外勢の売買行動）

期間	日数	空売り比率	株価平均	売買差額
19年10/20～ 20年1/24	64日	40.5%	23,443円	+34,668億 円
20年04/28～ 20年8/31	83日	40.0%	22,105円	+ 6,4 99億 円

（注）売買データは8/21まで

月別・騰落日別の空売り比率

上昇日合計・平均				下落日合計・平均			月平均・合計	
月	日数	上昇幅計	空売り	日数	下落幅計	空売り	空売り	騰落幅計
1月	11日	+1,947円	41.3%	8日	▲2,399円	44.2%	42.5%	▲451円
2月	6日	+1,362円	42.0%	12日	▲3,424円	43.7%	43.2%	▲2062円
3月	9日	+4,343円	43.3%	12日	▲6,569円	45.2%	44.3%	▲2225円
4月	10日	+4,124円	43.4%	11日	▲2,848円	44.9%	44.2%	+1276円
5月	11日	+2,979円	39.9%	7日	▲1,295円	42.2%	40.8%	+1684円
6月	12日	+3,165円	37.9%	10日	▲2,755円	40.7%	39.2%	+410円
7月	8日	+1,723円	39.7%	13日	▲2,301円	41.5%	40.8%	▲578円
8月	10日	+2,555円	38.7%	9日	▲1,126円	40.1%	39.3%	+1,429円

NK225Y (日経 225) - 週足 - ローソク足 (始, 高, 安, 終値) 2020/09/04 L=23,138.07 -1.69 -0.01%

移動平均線 (Close, 52, 0) 22,023.793



23,000円超えの4局面

過去の3局面は24,000円台にはつっかけてたが、そこが限界。

海外投資家の売買行動がポイント

23,000円を超えていた期間の海外投資家の売買行動は？

18年以降、週次ベースで23,000円を上回っていた局面は足下を含めて、全部で4回あります。23,000円を超えていた時の海外投資家の売買行動を見て、海外勢に上値を買う意欲があるのかを見てみたいと思います。

(週平均で23,000円を超えていた時の海外勢の 売買行動と株価)

18年01/04～18年02/02 5週・21日 日
経平均 23,680円

**1月第1週に2営業日で、6,809億円買い越し、
23,000円台に乗せましたが、その後
4週で、3兆2,115億円の売り越し。
上値を買う意欲はなかった。**

高値は売り越し3週目の1/23の24,124円

18年09/18～18年10/12

4週・17日

日経平均 23,716円

9月2週から10月1週まで4週で、2兆2,350億円買い越し、23,000円台乗せから24,000円台まで上昇し、これまでの高値24,270円（10/2）を記録しましたが、10月2週には1兆8,179億円売り越し、その後の急落につながる。

19年11/05～20年02/21

73日 日経平均 23,533円

**11月1週から12月4週までの8週で7週買い越し、
累計での買い越し額は2兆3,963億円となり、
23,000円台乗せから24,000円台まで上昇しま
したが、その後の8週で、7週売り越し、計1兆
1,860億円の売り越しで、その後、3月安値に
向かって、崩落しました。**

20年08/11～20年08/28

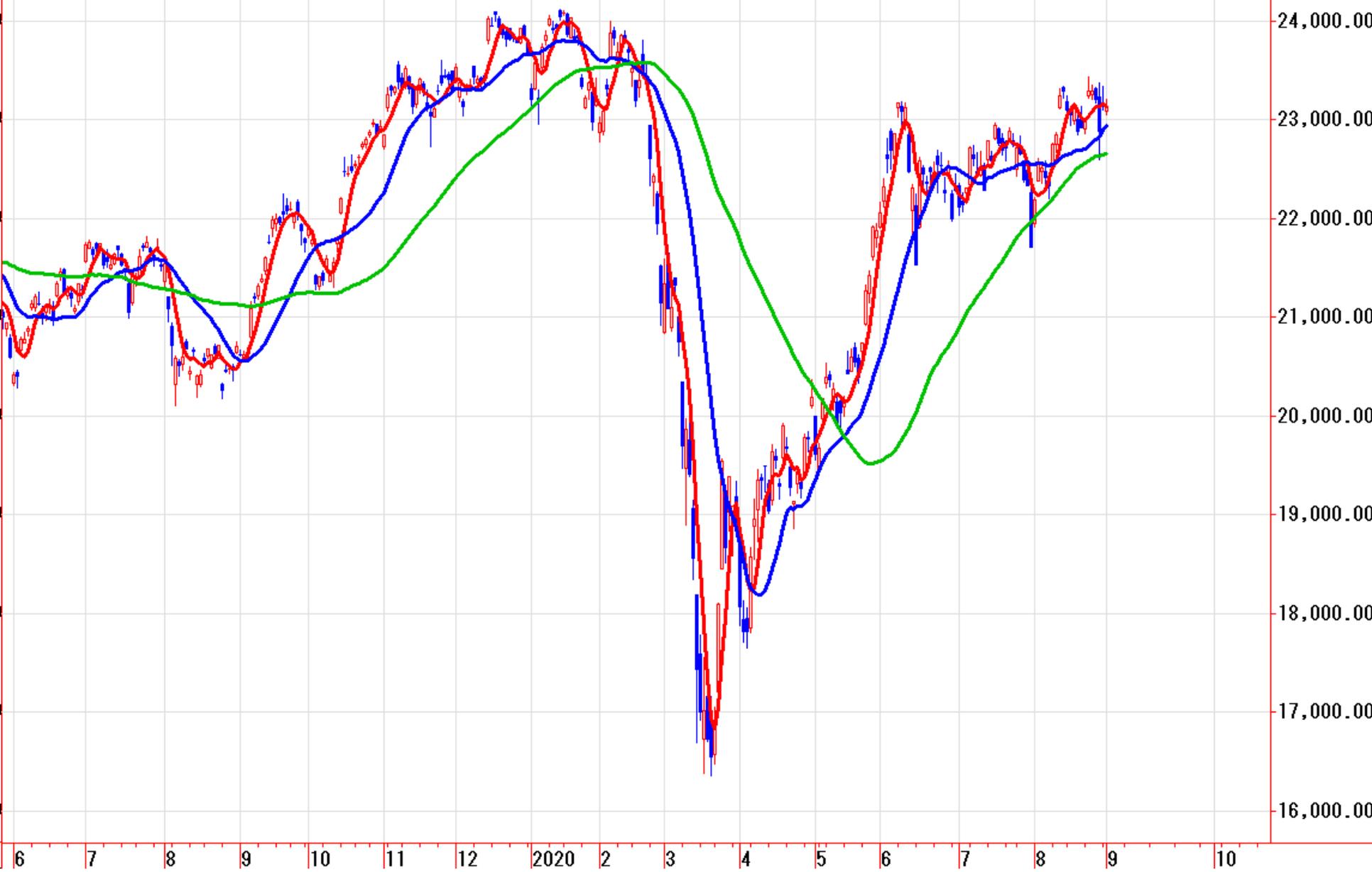
14日

日経平均

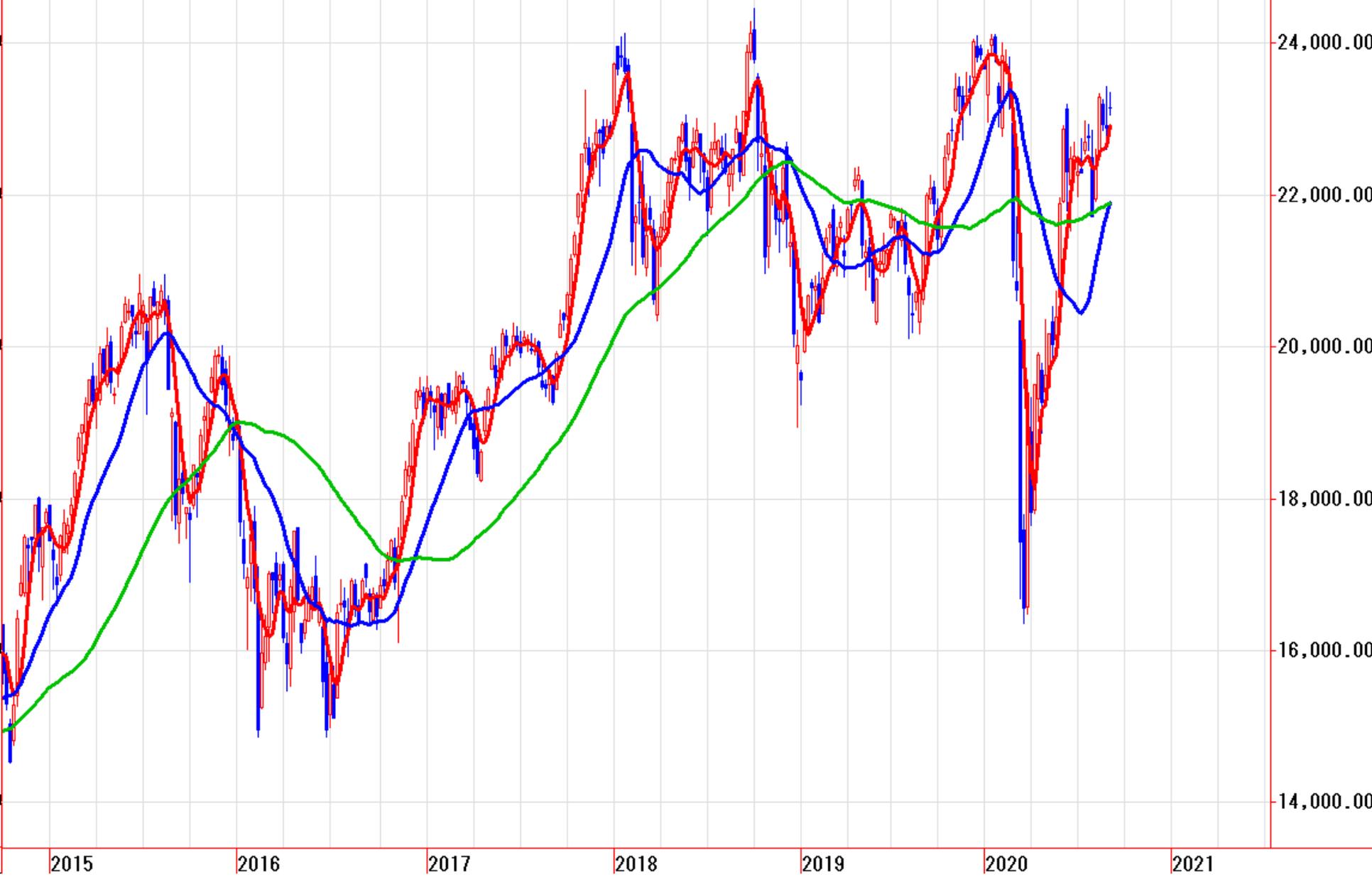
23,061円

**8月2週に9,899億円買い越し、23,000円台に乗
せましたが、翌週は1,592億円売り越したとい
うのが現時点までの動き**

NK225Y (日経 225) - 日足 - ローソク足 (始, 高, 安, 終値) 2020/09/01 L=23,188.07 -1.69 -0.01%
移動平均線 3 本 (Close, 5, 20, 60, 0) 23,132.040 22,948.581 22,655.017



NK225Y (日経 225) - 週足 - ローソク足 (始, 高, 安, 終値) 2020/09/04 L=23,138.07 -1.69 -0.01%
移動平均線 3 本 (Close, 5, 20, 60, 0) 22,912.064 21,891.984 21,886.133





質問コーナー

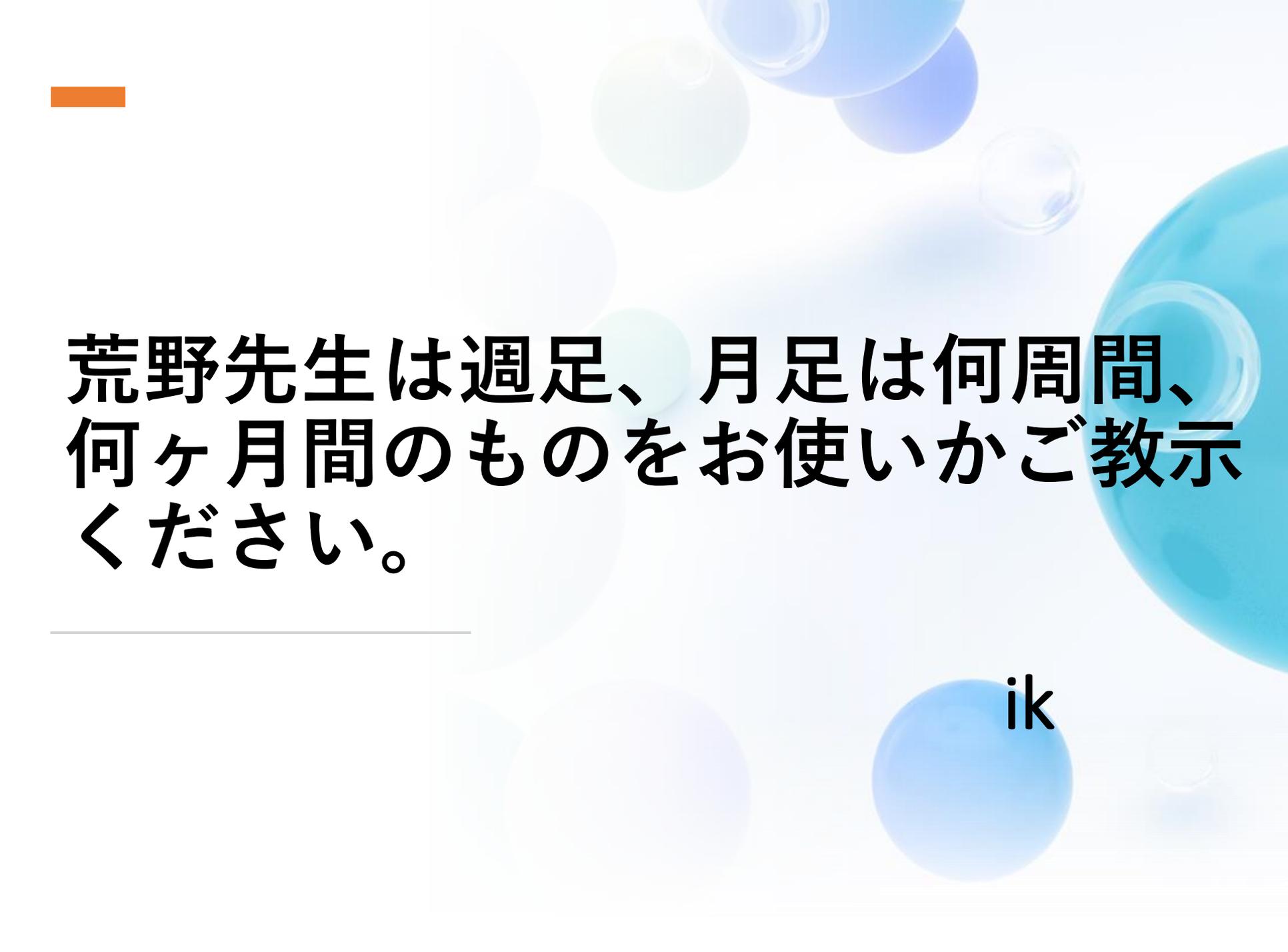


先週金曜日、“アベノミクス”の中心人物の突然の退陣表明がありました。しかしながら、東京市場も海外市場も、1日経過したあとを見ると、結果として“反応しない”・“動かない”状態で推移しています。その理由は何でしょうか。米国株について、金利上昇とかインフレ率の上昇の兆しが見えない限り、大統領選挙前まで、やはり、“売ってはいけない相場” と考えるべきなのではないでしょうか。

Andy

半世紀以上も市場を見てこられた荒野先生に、「市場の暴落と復活」についてお尋ね致します。コロナのような災害はショック安にこそなるが、回復も早い、本当の大暴落は、金融システムに関するもの、と今回改めて感じました。この見方は正しいでしょうか。今度大暴落が来ると仮定し、金融システムの何が壊れれば本物の暴落になり得るのでしょうか？金融緩和が終わるときでしょうか？金利上昇でしょうか？その後、どういう条件で回復するのでしょうか？リーマン時も、このコロナも、結局は巨大無制限金融緩和が、暴落を止めました。いつもこの方法で乗り切れるのでしょうか？それがやがて終わる時が来ると考えた方が良いでしょう。何卒よろしくお願い致します。

Po



荒野先生は週足、月足は何週間、
何ヶ月間のものをお使いかご教示
ください。

ik